

1 [2009 大阪工業大]

平行四辺形 ABCD において、対角線 AC を 3 : 1 に内分する点を P、辺 BC を 3 : 2 に内分する点を Q とする。

- ベクトル \vec{AC} を、 \vec{AB} と \vec{AD} を用いて表せ。
- ベクトル \vec{DP} を、 \vec{AB} と \vec{AD} を用いて表せ。
- ベクトル \vec{DQ} を、 \vec{AB} と \vec{AD} を用いて表せ。

2 [2013 立教大]

正六角形の頂点を反時計回りに A, B, C, D, E, F とする。このとき、ベクトル \vec{AE} を \vec{AB} , \vec{BC} を用いて表せ。

3 [2010 水産大学校]

$\vec{a}=(1, 2)$, $\vec{b}=(3, 4)$ を用いて、 $\vec{c}=(1, -1)$ が $k\vec{a}+m\vec{b}$ と表されるように定数 k, m を定めよ。

4 [2009 千葉工業大]

$\vec{a}=(2, 3)$, $\vec{b}=(3, -2)$ のとき、 $(22, 7) = \square \vec{a} + \square \vec{b}$ である。

5 [2009 千葉工業大]

$\vec{a}=(1, 2)$, $\vec{b}=(3, 4)$, $\vec{c}=(5, 6)$ とするとき、 $\vec{a}+t\vec{b}$ が \vec{c} と平行になるような t の値は \square である。

6 [2015 東京都市大]

2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} において、 $\vec{a}+\vec{b}=(7, 2)$, $\vec{a}-2\vec{b}=(4, -7)$ のとき、 $\vec{a} = \square$, $\vec{b} = \square$ となる。また、 $|\vec{a}+3\vec{b}| = \square$ となる。

7 [2003 小樽商科大]

O(0, 0), A(1, 3), B(2, 1), $\vec{OA}'=3\vec{OA}$, $\vec{OB}'=2\vec{OB}$ とする。このとき直線 AB' と直線 A'B の交点の座標を求めよ。

8 [2008 愛媛大]

ベクトル \vec{a}, \vec{b} が $|\vec{a}|=1$, $|\vec{b}|=2$, $|\vec{a}+2\vec{b}|=2\sqrt{3}$ を満たすとき、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \square$ である。また、 \vec{a}, \vec{b} のなす角を θ とするとき、 $\cos \theta = \square$ となる。

9 [2012 琉球大]

$|\vec{a}|=3$, $|\vec{b}|=2$ で、 \vec{a} と \vec{b} のなす角が 60° であるとき、 $|\vec{a}-3\vec{b}|$ を求めよ。

10 [2012 愛媛大]

$|\vec{a}|=2$, $|\vec{b}|=\sqrt{2}$ である2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} について、 $\vec{a}+\vec{b}$ と $2\vec{a}+3\vec{b}$ が垂直であるとする。 \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とするとき、 $\cos \theta$ の値を求めよ。

11 [2006 青山学院大]

ベクトル \vec{a}, \vec{b} のなす角が 30° で、かつ $|\vec{a}|=2$, $|\vec{b}|=3$ であるとする。このとき、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \square$, $(\vec{a}-\vec{b}) \cdot (3\vec{a}+2\vec{b}) = \square$, $|\vec{a}-\sqrt{3}\vec{b}| = \square$ である。

12 [2015 国士舘大]

ベクトル $\vec{a}=(-1, x)$, $\vec{b}=(-4, 3)$ に対し、次の問いに答えよ。

- ベクトル $2\vec{a}+\vec{b}$ とベクトル $\vec{a}-\vec{b}$ が平行になるような x の値は $x = \square$ である。
- ベクトル $2\vec{a}+\vec{b}$ とベクトル $\vec{a}-\vec{b}$ が垂直になるような x の値は $x = \square$ と \square である。ただし、 $\square < \square$ である。

13 [2004 工学院大]

$\vec{a}=(2, 0)$, $\vec{b}=(x, 2)$, $\vec{c}=(3, 4)$ とする。 \vec{a}, \vec{b} のなす角と、 \vec{b}, \vec{c} のなす角が等しいとき、 x の値を求めよ。

14 [2014 成蹊大]

$\vec{a}=(-7, 4)$, $\vec{b}=(2, -3)$ と実数 t に対して、 $|\vec{a}+t\vec{b}|$ は $t = \square$ のとき最小値 $\sqrt{\square}$ をとる。

15 [2017 東京都市大]

ベクトル $\vec{a}=(1, 1)$, $\vec{b}=(2, -1)$ に対し、 $\vec{p}=(1-t)\vec{a}+t\vec{b}$ とおく。実数 t が $0 \leq t \leq 1$ を満たしながら動くとき、 $|\vec{p}|$ の最大値と最小値をそれぞれ求めよ。

16 [1999 創価大]

$\vec{a}=(1, 2)$, $\vec{b}=(2, 1)$ のとき、ベクトル \vec{p} を $\vec{p}=k\vec{a}+(2-k)\vec{b}$ とする。 $2 \leq k \leq 4$ に対する \vec{p} の大きさ $|\vec{p}|$ の最大値を求めよ。

17 [2002 福岡大]

四角形 OABC において、三角形 OAB の重心を P、三角形 OBC の重心を Q とし、 $\vec{OA}=\vec{a}$, $\vec{OB}=\vec{b}$, $\vec{OC}=\vec{c}$ とする。このとき、 \vec{PQ} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて $\vec{PQ}=x\vec{a}+y\vec{b}+z\vec{c}$ と表すと、 $z = \square$ である。また、 $\angle AOC=60^\circ$, $OA=3$, $OC=2$ のとき $|\vec{PQ}| = \square$ である。

18 [2014 大阪工業大]

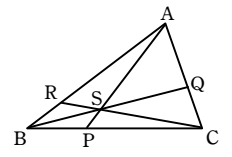
平行四辺形 OABC について、辺 AB の中点を P、辺 BC を 3 : 2 に内分する点を Q、直線 PQ と直線 OC の交点を R、 $\triangle OPQ$ の重心を G とする。

- \vec{OP} を \vec{OA}, \vec{OC} を用いて表すと、 $\vec{OP} = \square \vec{OA} + \square \vec{OC}$ となる。
- \vec{OQ} を \vec{OA}, \vec{OC} を用いて表すと、 $\vec{OQ} = \square \vec{OA} + \square \vec{OC}$ となる。
- \vec{OR} を \vec{OC} を用いて表すと、 $\vec{OR} = \square \vec{OC}$ となる。
- \vec{OG} を \vec{OA}, \vec{OC} を用いて表すと、 $\vec{OG} = \square \vec{OA} + \square \vec{OC}$ となる。

19 [2004 東京都立大]

三角形 ABC がある。辺 BC を 1 : 2 に内分する点を P、CA を 2 : 3 に内分する点を Q、線分 AP と線分 BQ の交点を S とする。直線 CS と辺 AB の交点を R とする。

- \vec{AP} を \vec{AB} と \vec{AC} で表せ。
- \vec{AS} を \vec{AB} と \vec{AC} で表せ。
- R は辺 AB をどのように内分するか。



20 [2012 撰南大]

三角形 ABC の辺 BC の中点を M とし、線分 AM 上に $\vec{AP} = \frac{4}{11}(\vec{AB} + \vec{AC})$ を満たすように点 P をとる。点 P が線分 AM を $m : n$ に内分するような m, n の組を求めよ。

21 [2013 昭和薬科大]

$\triangle OAB$ の辺 OA を 2 : 1 に内分する点を C、辺 OB を 3 : 2 に内分する点を D、AD と BC の交点を E とする。 $\vec{OA}=\vec{a}$, $\vec{OB}=\vec{b}$ とするとき、 \vec{OE} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。

22 [2005 東京電機大]

$\triangle OAB$ の辺 AB を 2 : 3 に内分する点を P とするとき、 \vec{OP} を \vec{OA}, \vec{OB} を用いて表せ。

23 [2012 東京電機大]

平行四辺形 OACB において、線分 AB を 3 : 1 に内分する点を D とし、直線 OD と直線 BC との交点を E とする。 $\vec{a}=\vec{OA}$, $\vec{b}=\vec{OB}$ とおくと、 \vec{OE} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

24 [2014 福岡大]

台形 ABCD において $AD \parallel BC$, $BC=3$, $AD=1$ とし、 $\triangle BCD$ の重心を P、 $\triangle BDA$ の重心を Q とする。 $\vec{BC}=\vec{a}$, $\vec{BA}=\vec{b}$ とし、 \vec{BP} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表すと $\vec{BP} = \square$ であり、 \vec{PQ} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表すと $\vec{PQ} = \square$ である。

25 [2008 南山大]

△ABCの内部に点Pがあり、辺ACを3:1に内分する点をMとする。 \overrightarrow{PM} を \overrightarrow{PA} と \overrightarrow{PC} で表せ。また、 $\overrightarrow{PA} + 2\overrightarrow{PB} + 3\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ が成立するとき、△PABの面積 S_1 、△PBCの面積 S_2 、△PCAの面積 S_3 の比 $S_1 : S_2 : S_3$ を求めよ。

26 [2007 香川大]

△OABにおいて、OA:OB=2:3であり、辺OB上の点DはOD=OAを満たしている。∠AOBの二等分線とAD、ABの交点をそれぞれE、Fとし、ABの中点をMとする。 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ 、 $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ とおくとき、次の問いに答えよ。

- (1) \overrightarrow{OE} を \vec{a} 、 \vec{b} で表せ。 (2) \overrightarrow{OF} を \vec{a} 、 \vec{b} で表せ。
 (3) \overrightarrow{AF} を \vec{a} 、 \vec{b} で表せ。 (4) $\frac{AM}{FM}$ を求めよ。

27 [2005 東北学院大]

Oを原点、Aを定点(3, 0)とする。点P(x, y)が条件

$$|\overrightarrow{OP} + 2\overrightarrow{AP}| = |\overrightarrow{OA}|$$

を満たすように動くとき、点Pの描く軌跡の方程式を求めよ。

28 [2007 湘南工科大]

2つのベクトル $\vec{a} = (0, 2)$ 、 $\vec{d} = (1, 2)$ がある。定点A(\vec{a})を通り、 \vec{d} に平行な直線の方程式を求めよ。

29 [2008 京都産業大]

座標平面上に原点Oと点A(0, 2)がある。点P(x, y)が $|\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{AP}| = |\overrightarrow{OA}|$ を満たしながら動くとき、点Pの軌跡を表す方程式をx, yで表せ。

30 [2003 千葉工業大]

座標平面上に3点O(0, 0)、A(0, 5)、B(6, 2)をとり、点Pを $\overrightarrow{OP} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ (tは実数)によって定める。

$|\overrightarrow{OP}|$ はtが \square のときに最小となり、最小値は \square である。

また、tが $0 \leq t \leq 1$ の範囲を動くとき、Pが描く図形の長さは \square である。

31 [1997 山梨大]

座標平面上に3点O(0, 0)、A(2, 3)、B(6, 1)がある。点Pの位置が実数s, tを用いて $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ で表されている。次のそれぞれの場合について、点Pの位置または存在範囲を図示し、その理由を説明せよ。

- (1) $s = \frac{1}{2}, t = \frac{1}{2}$
 (2) $s + t = 1, s \geq 0, t \geq 0$
 (3) $2s + 3t \leq 1, s \geq 0, t \geq 0$
 (4) $s + t = 2, st < 0$

32 [2004 東北学院大]

xy平面上的点A(0, 0)、B(b, 0)に対して、

$$(\overrightarrow{AP} + \overrightarrow{BP}) \cdot (\overrightarrow{AP} - 2\overrightarrow{BP}) = 0$$

を満たすxy平面上的点P(x, y)の描く図形の方程式を求めよ。

33 [2004 広島工業大]

原点O(0, 0)と点A(4, 2)がある。 \overrightarrow{OP} と \overrightarrow{AP} が垂直であるような点Pの軌跡を求めよ。

34 [2014 琉球大]

△ABCにおいて、辺ABを2:1に内分する点をD、辺ACを3:1に内分する点をEとし、線分CD、BEの交点をPとする。

- (1) \overrightarrow{AP} を、 \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AC} を用いて表せ。
 (2) AB=3, AC=4, AP= $\sqrt{7}$ のとき、∠BACの大きさを求めよ。

35 [1997 福井工業大]

△ABCの辺BC, CAをそれぞれ2:1の比に内分する点をD, Eとし、また、線分ADを3:4の比に内分する点をFとする。このとき、3点B, F, Eは同一直線上にあることを証明し、BF:FEを求めよ。

36 [2007 芝浦工業大]

半径1の円に内接する△ABCにおいて、 $|\overrightarrow{BC}| = \frac{6}{5}$ 、 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 1$ とする。

$\sin A = \sqrt{\square}$ であり、△ABCの面積は $\sqrt{\square}$ である。

37 [2002 福岡大]

平面上の2つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} が $|\vec{a}| = 3$ 、 $|\vec{b}| = 2\sqrt{2}$ 、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = -\frac{15}{2}$ を満たしている。

$\vec{c} = x\vec{a} + y\vec{b}$ とおくとき、 $\vec{a} \cdot \vec{c} = \frac{3}{2}$ 、 $\vec{b} \cdot \vec{c} = 3$ となるx, yの値の組は(x, y) = $\sqrt{\square}$ で

ある。また、このとき、原点Oと点B(\vec{b})、点C(\vec{c})を頂点とする三角形OBCの面積は $\sqrt{\square}$ である。

38 [2003 香川大]

座標平面上に3点A(1, $\sqrt{3}$)、B(-1, $\sqrt{3}$)、P(cosθ, sinθ)がある。ただし、 $-90^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ とする。△ABPの頂点Pから辺ABに下ろした垂線をPHとする。

- (1) △ABPの面積をθを用いて表せ。
 (2) 内積 $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB}$ をθを用いて表せ。
 (3) ∠APB=90°のとき、θの値を求めよ。
 (4) PB=3のとき、△ABPの面積および∠BPHを求めよ。

39 [2017 センター]

座標平面上に点A(2, 0)をとり、原点Oを中心とする半径が2の円周上に点B, C, D, E, Fを、点A, B, C, D, E, Fが順に正六角形の頂点となるようにとる。ただし、Bは第1象限にあるとする。

- (1) 点Bの座標は(\square ア, $\sqrt{\square$ イ)、点Dの座標は(- \square ウ, 0)である。
 (2) 線分BDの中点をMとし、直線AMと直線CDの交点をNとする。 \overrightarrow{ON} を求めよ。

\overrightarrow{ON} は実数r, sを用いて、 $\overrightarrow{ON} = \overrightarrow{OA} + r\overrightarrow{AM}$ 、 $\overrightarrow{ON} = \overrightarrow{OD} + s\overrightarrow{DC}$ と2通りに表すことができる。ここで $\overrightarrow{AM} = \left(-\frac{\square}{\square}$ エ, $\frac{\sqrt{\square}}{\square}$ カ)キ、 $\overrightarrow{DC} = (\square$ ク, $\sqrt{\square}$ ケ)である。

るから $r = \frac{\square}{\square}$ コ, $s = \frac{\square}{\square}$ シスである。

よって $\overrightarrow{ON} = \left(-\frac{\square}{\square}$ セ, $\frac{\square}{\square}$ タ $\sqrt{\square}$ チ)ツである。

- (3) 線分BF上に点Pをとり、そのy座標をaとする。点Pから直線CEに引いた垂線と、点Cから直線EPに引いた垂線との交点をHとする。

\overrightarrow{EP} が $\overrightarrow{EP} = (\square$ テ, \square ト) + $\sqrt{\square}$ ナ)と表せることにより、Hの座標をaを用いて表すと($\frac{\square}{\square}$ ニ a^2 ナ \square ネ, \square ハ)である。

さらに、 \overrightarrow{OP} と \overrightarrow{OH} のなす角をθとする。 $\cos \theta = \frac{12}{13}$ のとき、aの値は

$a = \pm \frac{\square}{\square}$ ヒフである。

40 [2015 センター]

1辺の長さが1のひし形OABCにおいて、 $\angle AOC = 120^\circ$ とする。辺ABを2:1に内分する点をPとし、直線BC上に点Qを $\overrightarrow{OP} \perp \overrightarrow{OQ}$ となるようにとる。以下、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とおく。

(1) 三角形OPQの面積を求めよう。 $\overrightarrow{OP} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}\vec{a} + \frac{\text{ウ}}{\text{イ}}\vec{b}$ である。実数tを用い

て $\overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC}$ と表されるので、 $\overrightarrow{OQ} = \text{エ}t\vec{a} + \vec{b}$ である。ここで、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{\text{オ}}{\text{カ}}, \quad \overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OQ} = \text{キ}$$

であることから、 $t = \frac{\text{ク}}{\text{ケ}}$ である。

これらのことから、 $|\overrightarrow{OP}| = \frac{\sqrt{\text{コ}}}{\text{サ}}$ 、 $|\overrightarrow{OQ}| = \frac{\sqrt{\text{シス}}}{\text{セ}}$ である。

よって、三角形OPQの面積 S_1 は、 $S_1 = \frac{\text{ソ}\sqrt{\text{タ}}}{\text{チツ}}$ である。

(2) 辺BCを1:3に内分する点をRとし、直線ORと直線PQとの交点をTとする。

\overrightarrow{OT} を \vec{a} と \vec{b} を用いて表し、三角形OPQと三角形PRTの面積比を求めよう。

Tは直線OR上の点であり、直線PQ上の点でもあるので、実数r, sを用いて

$$\overrightarrow{OT} = r\overrightarrow{OR} = (1-s)\overrightarrow{OP} + s\overrightarrow{OQ}$$

と表すと、 $r = \frac{\text{テ}}{\text{ト}}$ 、 $s = \frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$ となることがわか

る。よって、 $\overrightarrow{OT} = \frac{\text{ヌネ}}{\text{ノハ}}\vec{a} + \frac{\text{ヒ}}{\text{フ}}\vec{b}$ である。

上で求めたr, sの値から、三角形OPQの面積 S_1 と、三角形PRTの面積 S_2 との比は、 $S_1 : S_2 = \text{ヘホ} : 2$ である。

41 [2015 センター]

平面上の四角形OABCにおいて、 $|\overrightarrow{OA}| = 2$ 、 $|\overrightarrow{OB}| = 3$ 、 $|\overrightarrow{OC}| = 1$ 、

$\angle AOB = \angle BOC = 60^\circ$ であるとする。点Pが

$$\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB} = \frac{5}{4} \quad \dots\dots \text{①}$$

を満たしながら動くとき、三角形OCPの面積の最小値を求めよう。以下、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OP} = \vec{p}$ とおく。

まず、点Pの動く範囲を考えよう。①は、 $(\vec{a} - \vec{p}) \cdot (\vec{b} - \vec{p}) = \frac{5}{4}$ であるから、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \text{ア}$$

に注意すると $|\vec{p}|^2 - (\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{p} + \frac{\text{イ}}{\text{ウ}} = 0$ と書き換えられる。

$$\left| \vec{p} - \frac{\vec{a} + \vec{b}}{\text{エ}} \right| = \sqrt{\text{オ}}$$

と書き換えられる。点Mを $\overrightarrow{OM} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{\text{エ}}$

となるように定めると、点Pは、Mを中心とする半径 $\sqrt{\text{オ}}$ の円周上を動く。

次に、点Pと直線OCの距離について考えよう。直線OC上の点Hを $\overrightarrow{OC} \perp \overrightarrow{MH}$ となる

ようにとる。実数tを用いて $\overrightarrow{OH} = t\overrightarrow{OC}$ と表すと、 $\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{MH} = \text{カ}$ であることから、

$$t = \frac{\text{キ}}{\text{ク}}$$

となる。このとき、 $|\overrightarrow{MH}| = \frac{\text{ケ}\sqrt{\text{コ}}}{\text{サ}}$ であるから、点Pが①を満

たしながら動くとき、点Pと直線OCの距離の最小値は $\frac{\sqrt{\text{シ}}}{\text{ス}}$ となる。

したがって、三角形OCPの面積の最小値は $\frac{\sqrt{\text{セ}}}{\text{ソ}}$ である。